



# 学校だより



令和8年1月30日  
2月号  
調布市立第一小学校  
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> TEL042(481)7636

## 外国語を学ぶことで…。

副校長 山崎 清香

今年度も残すところ、あと2カ月となりました。3学期は1年の中でも最も短い学期です。慌ただしく過ぎがちですが、学校生活の1年間を締め括る大切な時期であります。子どもたちには、慌ただしさに流されることなく、落ち着いて学習に取り組ませ、進級・進学をさせたいと考えています。

さて、本校では国際理解への学びを深めるため、特色ある教育として外国語を推進しています。

一つ目の取組は、一年生から「外国語活動」を導入していることです。早い段階から英語の音やリズムに親しむことで、子どもたちは驚くほど自然に外国語を受け入れています。

二つ目の取組は、東京都教育委員会が主催する「イングリッシュキャラバン」の実施です。ネイティブの講師の方々方が5名来校し、1年生は自己紹介を、6年生は買い物体験を行わせていただきました。体育館や教室には、子どもたちの弾けるような笑顔と歓声が溢れていました。

大きな取組としての三つ目は、近隣にあるアメリカンスクール・イン・ジャパン (ASIJ) との継続的な交流をしていることです。異なる文化や背景を持つ同年代の仲間と直接触れ合うことは、子どもたちにとって、言葉の壁を越えて「伝えたい」という意欲を育む貴重な機会となっています。

12月上旬にはアメリカンスクールの子どもたちが本校へ来校し、5年生と交流しました。自己紹介をし簡単なゲームを行った後、第一小の子どもたちは、自ら先生となりアメリカの学校には習慣がないという「教室での掃除」の仕方を丁寧

に伝えていました。自分たちの日常を「教える」ことで、当たり前だと思っていた文化を客観的に捉え直す貴重な機会となりました。一方、1月29日にアメリカンスクールを訪れた際には、校内探検をしながらゲームを楽しみ、多様な価値観が混ざり合う心地よさを肌で感じてきたようです。

外国語を学ぶことや交流の目的は、単に新しい言葉を覚えるなどの語学力の向上だけではありません。それは、自分とは異なる多様な文化や考え方に触れたとき、それを「間違い」ではなく、「多様な正解の一つ」として受け入れ、視野を広げることこそが、国際理解への第一歩です。

今後、私たちが生きる時代は、過去の正解が通用しない時代です。そのような不透明の未来において多様な人々を尊重し、主体的に行動できる「人間力」は子どもたちにとって大きな武器となるはずで

す。これからも本校では、日々の授業や交流事業を通じて、子どもたちが未知の世界にワクワクしながら踏み出し、多様な人々と共生していくための土台を築いてまいります。そのために、教室という枠を時には飛び出し、多様な人々と手を取り合いながら、未来を切り拓く力を育ててまいります。

ご家庭でも、お子さんが学校で体験した「新しい発見」に、ぜひ耳を傾けていただければ幸いです。

